

平成 21 年の全国学力・学習状況調査 中学校国語Aで、次のような問題が出題された。

田中さんは、絵の鑑賞文を書き始めています。田中さんが書き始めた文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

これは、レオナルド・ダ・ヴィンチが描いた「モナ・リザ」という絵です。この絵の特徴は、どの角度から見ても女性と目が合います。

下線部「この絵の特徴は、どの角度から見ても女性と目が合います。」は、「この絵の特徴は」と「目が合います」との言葉の関係が不適切です。この文の内容を変えないように、「合います」の部分を適切に書き直しなさい。

これは「主述のねじれ(主語・述語の関係の誤り)」を正す問題で、正答例には次のように示されている1)。

・この絵の特徴は、どの角度から見ても女性と目が合うことです。

・この絵の特徴は、どの角度から見ても女性と目が合ってしまうことです。

一見すると平易な問題のように見えるが、正答率は 50.8%で他の問題と比べて高くなかった。なぜ正答率が高くなかったのかということについて、ある学会で日本語学の研究者たちが、日本語の語彙の中にはこのような主述のねじれを生じやすいものがあり、学習者にとって主述のねじれを正すことはそれほどたやすいものではない、という主旨の発表2)を行った。その際、取り上げる対象を印象的に示すために、主述のねじれが生じやすい文を「モナリザ文」と仮称した。

研究者たちは、問題出題者の「この文の内容を変えずに主述の関係を整えるには、『この絵の特徴は』に対応させて、『合う』に『こと』などの体言を付ける必要がある3)」という解説に対して、次のように主張した。

「この絵の特徴は」という主語の場合、必ず「～ことです」にしなければならないわけではない。例えば、次の(5)は、文末に「～ことです」がついていないが自然な文に感じられる。(5)に「～ことです」をつけた(6)の許容度が落ちることと対照的である。

(5) この絵の特徴は、杜撰な修復のせいで消えてしまった。

(6) ?この絵の特徴は、杜撰な修復のせいで消えてしまったことです。

確かに、上記の例文では「ことです」を付け加えるとかえって不自然な感じがする。したがって、述語を形式的に「ことです」と改めればよいということではないことが分かる。では、どのように説明すればよいのだろうか。研究者たちは次のように言う。

提示されている例文をよくみると、学力・学習状況調査のモナリザ文と、例文(5)の構文が異なることが分かる。例文(5)の主語・述語の関係は、「この絵の特徴は」という主語が、「消えてしまった」という述語と関係して、「何がどうなったか」という事象を示している。これに対して、学力・学習状況調査のモナリザ文では、「この絵の特徴は」は主語ではあるが、その主語に対応する述語はさらに細分化すると、「目が」という主語と「合う」という述語で関係づけられていて、文全体が「何がどんなだ」という説明になっている。一般に、例文(5)のように事象を示す場合は、述語は「する／なる」という動詞を用いるが、モナリザ文のような説明の場合は、述語は名詞や形容詞・形容動詞を用いる。したがって、学力・学習状況調査のモナリザ文では、述語を「合う」とい

う動詞ではなく、「(合う)ことです」という名詞にしなければならないということになる、という。

研究者の指摘のとおりで、モナリザ文の出題者の解説は説明不足であることがよく分かったが、これを中学生や一般の人に説明するのは難しいことだと思った。

学会ではこの後、モナリザ文のように主述のねじれが生じやすい語彙の調査について発表が続いた。それによると、「特徴」という言葉のように、主語に「夢／希望／課題……」などの抽象名詞が使われるとモナリザ文が生じやすくなり、さらに驚くべきことに、修正しにくいモナリザ文になる語彙があるという報告4)があった。

「ある事柄の内容について述べたいとき、その事柄を表す抽象名詞 N1 を主題にして文をはじめ、述部でその内容を説明し、「こと」などの形式名詞 N2 を付けることによって名詞述語に整えて文を作成する」という経過をたどることになるが、このとき問題となるのは、下記のように、適切な名詞述語で終わることのできない抽象名詞 N1 が存在することである。

(15) この素材の性質は、薄く延ばしても強度が保たれる{? こと / ? ところ / ? もの / ? 点}だ。

これは言わば、正解を作れないモナリザ文課題を生み出すような抽象名詞主題が存在する、ということであるが、「特徴」のような正解を作れるタイプの抽象名詞と、上記「性質」のような正解を作れないタイプの抽象名詞にはどのような違いがあり、具体的にはどのような語がそれぞれのタイプに分類されるのであろうか。

学校教育では最も基本的な文法事項の一つであり、平易な問題とされている主語・述語の関係が、それほど単純ではないこと、併せて、私たちは一語一語について微妙なニュアンスの違いを無意識に処理しながら日本語を使っていることを、考えさせる発表だった。研究者たちが、「モナリザ文」という魅力的な名称を付して共同研究をする理由も少し分かる気がした。

本学キャリアアップ・プログラム「ビジネス文章表現」では、このような専門的で複雑な文法事項を取り上げることはありません。むしろ専門的で複雑な文法事項の処理を伴わずに文章を作成するにはどうすればよいか、ということを取り上げていこうと思っています。たとえば、さきの「モナリザ文」では、同じ意味内容をあらわすのに主語を変えずに「述語を修正せよ」としたために難解になってしまったわけです。述語ではなく主語を変えてたとえば、「この絵は、どの角度から見ても女性と目が合うのが特徴です。」とすれば、ずっと簡単に修正することができます。ビジネス文章表現の講座では、複数の当事者間で生じた複雑な出来事をわかりやすく伝えるにはどうすればよいか、多くの事項の中から長所を抽出して強調するにはどのような表現を用いればよいか、などの課題について、平易な表現方法を用いて文章を作成することを考えていきたいと思っています。

- 1) 国立教育政策研究所教育課程研究センター(2009)「平成 21 年度全国学力学習状況調査 解説資料中学校国語」
- 2) 安部朋世・橋本修(2014)「いわゆるモナリザ文に対する国語教育学・国語学の共同的アプローチ」(「全国大学国語教育学会発表要旨」pp273-276)
- 3) 2)に同じ
- 4) 2)に同じ

◆今週の一冊◆

木本先生おすすめの書籍です。



『AI vs. 教科書が読めない子どもたち』 新井紀子著 東洋経済新報社

著者は、「ロボットは東大に入れるか」プロジェクトのディレクター(いわゆる「東ロボくん」の開発責任者)を務めた数学者。同書の中で、「『AI』と『AI技術』の混同」、「シンギュラリティについての誤解」、「教科書を読めるようにする教育」等の話題を取り上げて、平易な表現で分かりやすく説明しています。専門的な内容を扱っているにもかかわらず、昨年度のベストセラーの一つになった本です。

◎事務局から◎

2019年度、キャリアアップ・プログラム、カルチャー講座受講申し込み受付中です！

◇2019年度 1学期開講科目のご案内◇

※科目名からシラバスを閲覧できます。

■「[ビジネス文章表現～文章表現の基本を学び直す～](#)」

講師：教養教育部 教授 木本一成

分かりやすく説得力のある文章を書くために、ビジネス文章表現の基本や文書作成の考え方について学びます。

★2019年5月20日(月)開始(毎週月曜全6回)

■「[エンジニアのためのマネジメント入門](#)」

講師：経営学科 教授 岡田 斎

組織に入られたエンジニアが最低限度理解しておくべきマネジメントの基礎を分かりやすく解説します。

★2019年5月21日(火)開始(毎週火曜全6回)

■「[NPOの立ち上げと運営・資金調達\(ファンドレイズ\)](#)」

講師：スポーツ経営学科 准教授 中村隆行

NPOとは何か、何ができるのか、社会貢献しつつ、持続可能な組織をどうやってつくるのかについて考えます。

★2019年5月21日(火)開始(毎週火曜日全6回)

■「[日本経済入門](#)」

講師:経済学科 教授 野北晴子

アベノミクスの経済政策を中心に、その目的や効果について見ていきます。そのことを通じて、経済学の基礎知識や経済学的思考を身に付けます。

★2019年5月22日(水)開始(毎週水曜日全6回)

■「[女性のための初歩からの投資\(入門編\)](#)」

講師:経営学科 教授 糠谷英輝

なぜ投資が必要なのかから始め、投資対象や手法、リスクとリターンなど、投資を始めるために必要な基礎知識を初歩から学びます。

★2019年5月23日(木)開始(毎週木曜日全6回)

■「[コーポレート・ファイナンス基礎](#)」

講師:経済学科 教授 重本洋一

企業の資金調達や投資活動はどのような判断基準で行えばよいのか?これらの点についてコーポレート・ファイナンス理論を踏まえつつ実例を用いて易しく解説していきます。

★2019年5月24日(金)開始(毎週金曜日全6回)

■「[国際金融の基礎](#)」

講師:経済学科 教授 福居信幸

国際金融とは何か、またそれは私たちの生活にどのような影響を与えているのかを初めて国際金融の世界に触れる方にも分かりやすく解説します。

★2019年5月24日(金)開始(毎週金曜日全6回)

2018年度の講座終了後のアンケートに寄せられた受講生の声の一部をお知らせします。

2019年度の受講をご検討の皆さまは、ぜひこちらをご覧ください、受講の参考にさせていただけたらと思います。

<http://www.hue.ac.jp/visitors/local/voice2015.html>

1 学期 カルチャー講座

■「[二つの文化が合流する場所:「奄美」の世界～奄美群島のコバと文化に触れる～](#)」

講師:教養教育部 准教授 重野裕美

本土文化と琉球文化が重なる場所でもある奄美群島のコバと文化(歌・踊り・料理・風習)に触れます。

★2019年5月22日(水)開始(毎週水曜日全6回)

※2 学期、3 学期の講座についても申し込みを受け付けております。

詳細については、以下URLをご確認ください。

《キャリアアップ・プログラム》

<http://www.hue.ac.jp/visitors/local/careerup/index.html>

《カルチャー講座》

<http://www.hue.ac.jp/visitors/local/culture/index.html>

※ご意見・ご感想はこちらまで career-up@hue.ac.jp

※配信解除はこちらから行ってください。

<https://y.bmd.jp/bm/p/f/tf.php?id=0828719345&task=cancel>

※広島経済大学 オフィシャルサイト <http://www.hue.ac.jp/>

発信元：広島経済大学 教育・学習支援センター キャリアアップ・プログラム事務局（082-871-9345）